

郷土の扉

The gateway to local history



二つの神宮

このたび、霧島神宮の社殿の一部が国宝に、鹿兒島神宮の社殿が国の重要文化財に指定されることになりました。霧島市内には二つの神宮が存在しますが、これは全国でも珍しいことです。

神宮とは

「神宮」は本来、伊勢神宮の正式名称ですが、明治時代に入ると、天皇や天皇の祖先(皇祖神)が祭神である神社の一部は、神宮号を名乗ることを許されています。

現在、神宮号を名乗っているのは全国で25社。一つの自治体に複数の神宮があるのは、京都市(白峯神宮・平安神宮・新日吉神宮)と和歌山市(※國懸神宮・日前神宮)と霧島市の3カ所のみです。

霧島神社と鹿兒島神社

霧島神宮は天照大神の孫であるニギノミコト、鹿兒島神宮はニギノミコトの子であるヒコホデミノミコトを祭神として祭っています。その子であるウガヤフキアエズノミコト(鶴戸神宮)のさらに子どもが日向から東征し、初代天皇である神武(宮崎神宮)として即位した神話から、ニギノミコトからウガヤフキアエズノミコトまでの三代の神は、日向(南九州)を舞台に活躍した神・日向三代といい、皇祖神に位置付けられています。

霧島神宮・鹿兒島神宮ともに、日本最古の神社名簿である『延喜式』に「霧島神社」「鹿兒島神社」として記述がある古社です。霧島神社は火山の噴火によって、鹿兒島神社は戦乱によって社殿の焼失などありましたが、近世になると薩摩藩主である島津氏からあつく信仰され、豪華な社殿を寄進されるなど薩摩藩内の主要な神社として栄えています。

明治7(1874)年にそれぞれ、皇祖神を祭る由緒顕著な神社として、神

宮号を称することが太政大臣から許可されました。

霧島という立地

神話の舞台に関しては、さまざまな場所にさまざまな伝説があります。江戸時代になると、薩摩藩士たちは日向神話の舞台を霧島山のある薩摩藩領内の地域に求めていきます。天孫降臨神話にある、ニギノミコトが地上世界に降臨する場所・高千穂を、霧島山の高千穂峰と考えるためです。

明治新政府には、薩摩藩出身者が多く在籍していました。日向三代の墓である可愛山陵(薩摩川内市)・高屋山上陵(溝辺町)・吾平山上陵(鹿屋市)の神代三山陵は宮崎県内にも多く候補地がありました。明治7年に全てが鹿兒島県内に定められました。霧島山周辺にあった霧島神社と鹿兒島神社が神宮号を許可されたのも、さまざまな歴史的背景が手伝ったと考えられています。

(文責 小水流)

※國懸神宮と日前神宮は一つの境内にあり、総称して日前宮とも呼ばれる。

デジタルスタンプラリー

両神宮を巡ってスタンプを集めた人(先着1,000人)にオリジナルグッズをプレゼント。スマートフォンを使って専用サイトでGPS(位置情報)を読み込み、設定されたスポットをタップすると、スタンプを獲得できます。

- 期間=12月28日(火)まで
- グッズ引換場所=霧島温泉観光案内所・霧島市観光案内所・日当山西郷どん村観光案内所



↑詳細はこちら

問=市観光協会 ☎(78) 2115

霧島神宮・鹿兒島神宮を知ろう

開催中

霧島神宮・鹿兒島神宮社殿展

両神宮の社殿写真を展示。文化財としての魅力を解説します。

- 期間=2月27日(日)まで
- 場所=隼人歴史民俗資料館(鹿兒島神宮境内)
- 入館料=大人150円、高校生以下80円

問=社会教育課 ☎(64) 0708